

**認知症の人々と共に生きる
地域共生社会を目指して**
—認知症ケアとストレングス・アプローチ—

課題提起

中村考一

自己紹介・構成

- 熊本県・八代市出身（イグサ農家）
- 社会福祉士・介護福祉士
（仕事）
- 認知症介護指導者養成研修
- 認知症ケアレジストリ研究
- ひもときシート

話題提供の構成

- 認知症ケアにおいて強みを生かすためには、こんなことが必要なのではないか？をお話しする
→突っ込んでいただく

どのようにすれば、認知症の人に強みを発揮してもらえるか

- 存在自体が強みとして機能する
- 事実と解釈の区別
- ICF
- BPSDのメッセージ
- 認知症の人視点と認知症の人主体

事実と解釈の区別

- 中村さんはおにぎりをたくさん食べた（解釈）
- 中村さんはおにぎりを4個食べた（事実）

ポイント①

事実を積み重ねていかないと、解釈（理解）がずれやすい

自分の解釈のみ
で認知症の人を
理解してしまう

自分の解釈のみ
でチームメンバー
を理解してしまう

解釈の根拠と
なった事実を
説明できる

事実と解釈の区別

- 中村さんは「パステルのプリンでないと食べない」と言い、プリンを食べなかった…（事実）



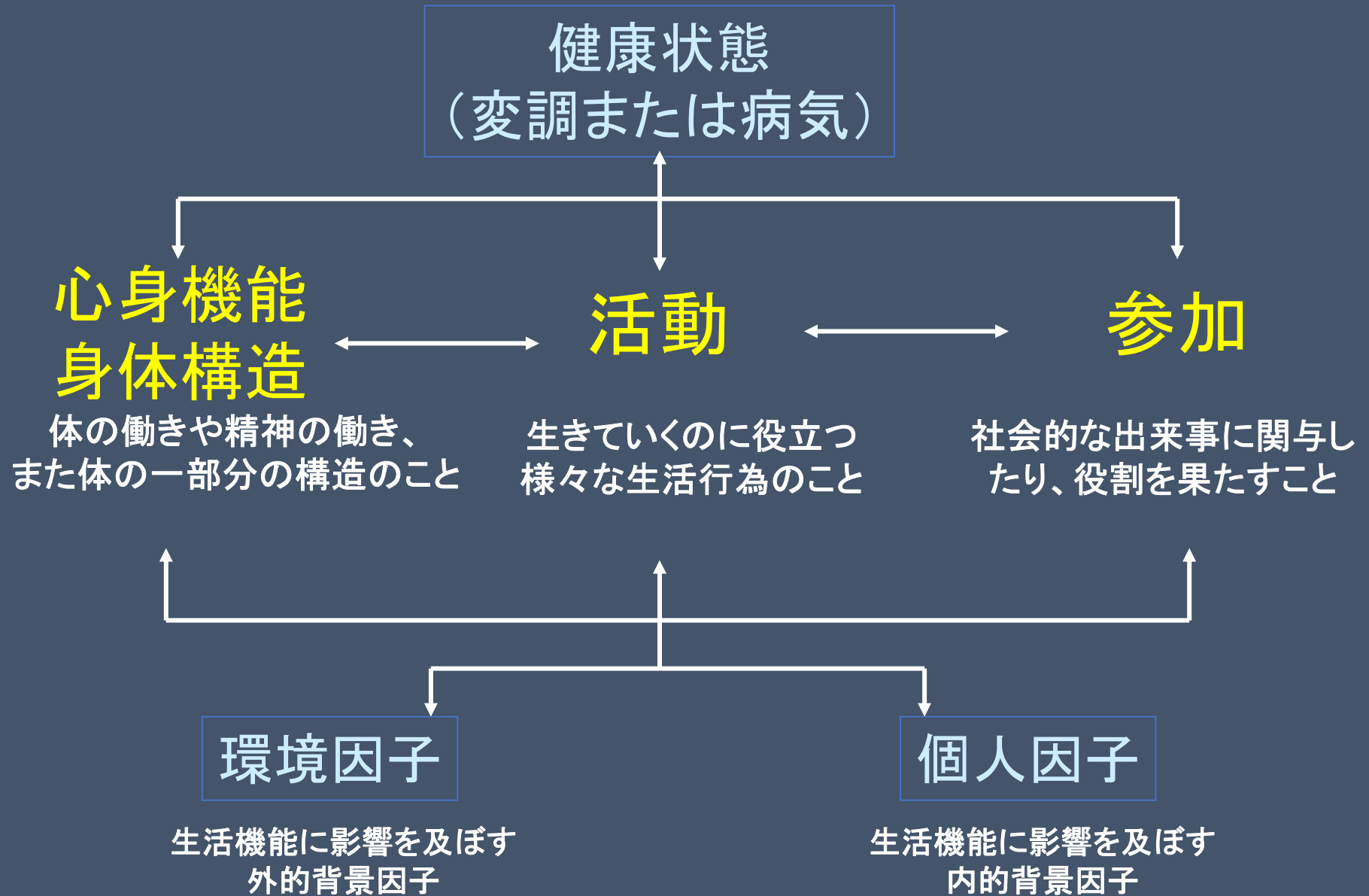
【解釈①】

- 中村さんは頑固な性格である

【解釈②】



生活機能の視点と ICFの構成要素間の相互作用



BPSDのメッセージ

〇〇で困る ⇒ 〇〇したい : 〇〇できない

佐藤信人(2008) 参照

外に出て
道に迷う

帰り道がわ
からない

- 「せんべいを食べたい」（本人より）
（ケア）せんべいを買ってきて渡した。
（結果）渡したが、食べてくれなかった。
- 「せんべい屋に買いに行って食べたい？」（専門職）
（ケア）一緒にせんべい屋に買いに行った
（結果）せんべいをおいしそうに食べてくれた。

⇒道中を楽しんでいたし、せんべい屋さんと話を楽しんでいた。そうしたことを含めて「せんべいを買いたい」のかもしれない。

- 「せんべいを買って食べる過程を楽しみたい」と理解できるのではないか

⇒そういえば、最近は一人で過ごしていることが多いようだ。人とのつながりを持ちたいが持てないのかもしれない。

ニーズを重層的に捉える (とらえようとし続ける)

歩きたい (能力向上)

⇒生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)

*生活動作に関する意欲

表層的

歩いてどこに行きたいのですか？

墓に行きたい

⇒長期目標

*生活の姿

夫を身近に感じていたい

*本人の訴えの実現可能性が低い場合、実現可能な内容で長期目標を設定する

なぜ墓に行きたいのだろう？

より中核的

結びつき

⇒コアニーズ
(佐藤信人)

*長期目標に含めて記述

どのようにすれば、認知症の人に強みを発揮してもらえるか



どのようにすれば、認知症の人に強みを発揮してもらえるための条件が整えられるか

- 対話
- 自己受容

事例 デイサービス長谷川の巻

考一 82歳。認知症あり、トイレには自分で行くが失禁や失敗をしている。家の外に出ると戻ってこれなくなる時がある。自宅では失禁や排泄の失敗がある時に家族が強く促すと入浴されるが、拒否することもある。長い時では一ヶ月近く入浴しないこともあった。介護保険サービスは初めて利用する。週1回のデイサービス利用をはじめ一ヶ月が経過。

デイサービスでの考一さんとスタッフの会話…

スタッフ : お風呂に入りませんか？
考一さん : 入らない
スタッフ : 気持ちがいいから、どうですか？
考一さん : 調子が悪いんだ
スタッフ : さっぱりしますよ
考一さん : 後で入るから
スタッフ : 今、ちょうどいい湯加減ですよ。
考一さん : 明日はいるから…。

さて、ちょっと事例について考えます。認知症の人の支援をどのように考えていけばいいかということを考える事例です。事例を読んでください。



スタッフは、入浴と同様に裸になる
「健康診断」は、高齢者にとって生活体験の
中で重要な位置づけとなっているので、
「健康診断」という言葉を使えば、
入浴していただけなのではないかと考え、
「健康診断ですよ」と考一さんを入浴に誘った。

考一さんは浴室に向かい、スタッフの脱衣を
促す声かけに健康診断だと思ったのか衣類を
脱ぎ、その流れで入浴を済ませた。スタッフの
「湯加減はどうでしたか？」という声かけに
「よかった」と言った。

① 「お風呂」と伝え、ご本人が了解する
までは入浴を行わない。

② 「健康診断」と伝え、誘導し入浴を
していただく。

本人が了承するまで 入浴しない

【メリット】

- 本人が穏やかに過ごすことができる
- スタッフが無理強いしないのでストレスがない

【デメリット】

- 健康を損なう恐れがある
- いつまで入浴しないのかが不明確
- 風呂に入らないことにより、他の利用者から疎外される可能性がある
- 居宅サービス計画に位置付けられていることが実施できない

健康診断と伝え 入浴してもらう

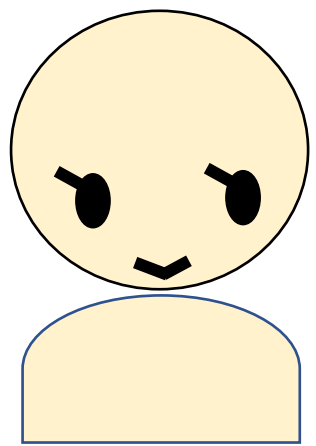
【メリット】

- 皮膚疾患の予防ができる
- 業務がスムーズに進む
- 全身の状態が観察できる
- 家族から喜んでもらえる

【デメリット】

- 嘘をついており、本人の意思ではない
- 本人がだまされたと思ってしまう可能性がある
- 他の利用者の信頼を失う
- スタッフが心を痛める可能性がある
- 嘘をつくのが当たり前になってしまう可能性がある
- 拒否の原因はわからない

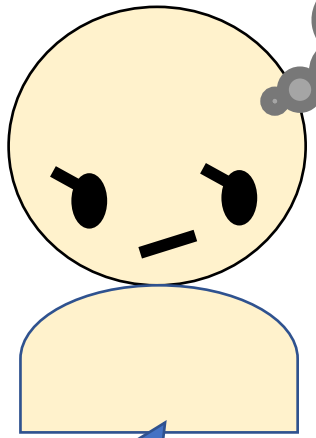
健康診断
ですよ！



【反応】
怒り
攻撃

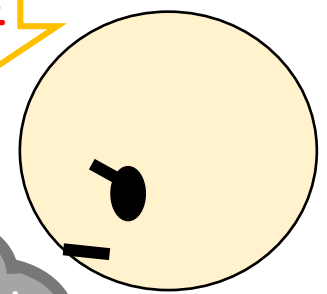


なんで嘘なんかつく
のよ。ダメじゃない。



【価値観・信念】
嘘をついては
いけない

誠実でいたい
ごまかしたい



私は誠実にケアしたかった
だけなんだな。そうやって
頑張ってきたんだな。
(自己受容)

仮説

かみ合っていない時というのは、見えているところだけで戦っているのではないか？

